かごしま　NIE実践校

記事のキーワードを探ろうと熟読する児童

大川内小学校（出水市）

確かな学力の定着へ

実践2年目は「確かな学力の定着」をテーマに展開。第2土曜日のNIEタイムで、低学年は好きな写真を選んで題名を付け、中学年はお気に入りの記事に感想を書き、高学年は重大ニュースが1面に並んだ各紙の読み比べにも挑戦した。

担当の田尾久美子教諭(43)は「児童が初めて読む文章に抵抗感を持たなくなった」と成果を語る。担任を務める5・6年の学活では、小学生のインターネットトラブルを伝える30行の記事を熟読。「親とルールを決めて使う」「怪しいサイトに出入りしない」など、感想を述べ合った。

継続することで「何に気をつけて読めばいいか、書き手の意図は何かを理解する力が伸びる」と田尾教諭。知識活用力を問う全国学力テストの国語Bで通過率（正答率）が約4割向上したことも、NIE活用の大きな効果とみる。

（梅下陽一）

図書室で新聞の読み方の指導を受ける生徒

名瀬中学校（奄美市）

ネットとの違い探る

実践校1年目の活動は新聞に親しみ、ニュースに着目することに重点を置いた。図書室に4紙を置くコーナーを設け、自由に読む環境を整えた。73人の3年生全員が国語の授業で活用。生徒は気になるニュースを見つけ、概要をまとめて自分の意見をクラスで発表する取り組みを実践した。

生徒は関心が薄かった出来事にも目を向けるようになったという。壽流音さんはiPS細胞による再生医療で「あらゆる病気が治せる世の中が来る」と希望を感じた。栗栖朋花さんはヒトラーの記事から「独裁者によるひどい時代はこれからも起きるかも」と心配になった。

新聞とインターネットを比較し、それぞれの利点や問題点も探った。大脇輝希教諭(25)は「言葉や表現を学び、世の中の出来事に興味を持つ感性を育てたい」と話した。（西青木亨）